

ふじのくにに一の長寿の町を誇りに

川勝平太静岡県知事と語り合った日 12・3

静岡県でもっとも高齢化率が高い川根本町を12月3日、川勝平太静岡県知事が訪問した。町内の各施設などを視察したあと、広聴会を開催。町民の皆さんと膝をつき合わせて意見を述べ合った。本町のことを知事は「高齢化率が高いではなく、ふじのくに一の長寿の町として誇りを持って暮らそう」と提案。知事来町の1日を追った



福祉センターで利用者の皆さんと笑顔で握手する川勝知事。心温まる瞬間。

川勝知事が各施設を訪問

川勝平太静岡県知事が県内各地を視察し、地域住民の皆さんと直接対話することで、地域の実情を把握する「知事広聴」は、12月3日に実施されました。千年の学校の名誉学長として本町を訪れたことがある川勝知事。本町との縁も深い人です。

午前中、町内の若者定住促進住宅と福祉センターを見学し、午後は文化会館で、住民の皆さんとの広聴会を開きました。

午前10時、本町に到着した川勝知事は佐藤公敏町長の歓迎を受けたあと、視察1カ所目の若者定住促進住宅(地名)に向かいました。この住宅は、「若者を迎える住まいづくり」を定住対策の基本に掲

げる本町が平成17年度から建設を進めてきた住宅です。現地に到着した知事一行は、住宅の周辺をぐるっと見学し、建設課職員による概要説明を受けました。建設経緯や建物の基本構造、現在の入室状況などの説明を受けたあと知事は、「若者の定住を促すという目的が素晴らしい。ただし住宅というものは、自由に使える土地がどれだけあるかが重要。建ぺい率だけではなく、庭も含めた敷地全体でとらえたいですね」と職員に提案しました。

住宅の玄関先では、知事の訪問を心待ちにしていた住民の皆さんが顔を出していました。「この住宅は住みやすいところですか。何か希望することがありますか」と知事が質問を投げかけると、住民の皆さん

センター。町民参加による地域の福祉拠点として、社会福祉協議会が運営する施設です。午前11時過ぎに到着した知事一行は、職員の案内で施設内を一巡。館内を丁寧に見学しました。途中、利用者の皆さんが健康体操をしているところにお邪魔すると、知事の来訪に皆さんから喜びの声が上がりました。知事は一人一人と温かい握手を交わしたあと、健康体操に飛び入り参加。皆さんから大きな歓声と拍手を受け、一緒に体操を楽しみました。

その後、福祉センター職員と面談した知事は「暮らしへの不安などはありませんか」と質問。

それに対して職員は、「ここで働く職員も平均年齢が50代。高齢化が進む町の将来はどうしても不安です。一人暮らしのお年寄りも増えてきており、これからの生活など心配ですね」と、切実な現状と将来へ

の不安を訴えていました。知事は、「ここは高齢化率が県内で一番高い町。でも『高齢者が多い』ではなく、『長寿の人が多い町』と発想を変えてみてはいかがでしょうか。この町は『ふじのくに一の長寿のまち』なんです。ここには美しい風景や豊かな環境、きれいな空気があります。発展する可能性は十分にある。大丈夫、この町に誇りを持ってください」と職員に激励を送りました。

知事は予定時間いっぱい福祉センターを見学し、利用者の皆さんとの触れ合いを楽しんだあと、文化会館に移動し、午後からの広聴会に備えました。

文化会館では、午後1時の開演を前に、知事の登場を心待ちにしていた人が続々と来場。300席あるホール内は見ると間に埋まっていきました。

広聴会は次ページへ



建設課職員の説明を聞きながら、若者定住促進住宅を見学する川勝知事。積極的に質問を投げかけたり、ときには的確なアドバイスを送ったりしていた。



川勝知事を囲んで。若者定住促進住宅の入居者の皆さん。雨が降るあいにくの天候ではあったが、お子さんを連れて、知事と面談してくれた。



福祉センターで、健康体操中の皆さんの輪に知事が飛び入りで参加。一緒になって体操を楽しんでいた。大きな笑い声と拍手が飛んでいた。



みどりの丘の工房にて。陶芸作品を作っているところを知事が見学した。手先の器用さが求められる精巧な作品の数々に、感心しきりの知事だった。